

# 群馬大学 理工学府・生体調節研究所

## 第20回 生命科学セミナー

共催 群馬大学ファイブバイオプロセス研究会  
群馬大学理工学府「化学生物学プロジェクト」  
「内分泌・代謝学」共同利用・共同研究拠点  
概算プロジェクト「生活習慣病の病態解明と分子標的探索」

平成27年3月16日(月)  
理工学部 総合研究棟 3階 303教室

15:00～15:20 吉田 知史 先生  
群馬大学 未来先端研究機構 内分泌代謝・シグナル学研究部門 准教授  
「不老長寿は実現可能か？」

酵母等のモデル生物を用いた研究から細胞老化の分子機構が徐々に明らかになりつつある。細胞レベルでのシグナル伝達の理解が生活習慣病や老化を防ぐのにどのように貢献できるのか議論したい。

15:20～15:40 石井 要一 先生  
協和発酵キリン株式会社 バイオ生産技術研究所 研究推進グループ マネージャー  
「抗体産生における高生産性-高品質の株と低生産性-低品質の株との比較」

近年、その優れた特性から多くの抗体医薬品の開発が行われているが、生産コストが大きな課題となっている。商業規模での抗体産生に適した細胞株の特性を明らかにすべく実施した結果について紹介する。

15:40～16:00 黒沢 綾 先生  
群馬大学 大学院 理工学府 分子科学部門 助教  
「ヒト遺伝子破壊株を用いたDNA二本鎖切断修復機構の解析」

電離放射線などによって誘発されるDNA二本鎖切断は、細胞にとって最も脅威となるDNA損傷である。ヒト遺伝子破壊株を用いた解析をもとに、ヒト細胞におけるDNA二本鎖切断修復機構について紹介する。

16:00～16:10 休憩

16:10～17:10 小島 至 先生  
群馬大学 生体調節研究所 細胞調節分野 教授  
「グルコース感知受容体 T1R3 によるインスリン分泌の制御」

インスリンを分泌する膵 $\beta$ 細胞の細胞表面には、グルコースにより活性化されるグルコース感知受容体が発現している。この受容体の特性と、インスリン分泌調節における意義について紹介する。

セミナー終了後、情報交換会を予定しておりますので、こちらにも是非ご参加ください。

会費： 2,000円

担当： 若松 (kwakamats@gunma-u.ac.jp)